

Title	<原著>創立 40 周年を迎えて
Author(s)	寺松, 孝
Citation	京都大学結核胸部疾患研究所紀要 (1982), 15(1/2): 1-1
Issue Date	1982-09-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/52165
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

創立40周年を迎えて

京都大学結核胸部疾患研究所長

寺 松 孝

昭和16年4月、京都帝国大学結核研究所が設置されて以来、既に40年が過ぎたことになります。その間、昭和42年6月には、名称が京都大学結核胸部疾患研究所に変更され、新しい建物と160床に増えた附属病院が出来上りました。現在では7部門4診療科を有しております。

結核研究所として開設された当時は、第2次世界大戦前夜であり、学問研究に大きな困難が予測されておりました。そして40年を迎えた現在、世界的規模の経済戦争の最中であり、この結末が流血なく21世紀の人類の繁栄に導かれるか否かは予断を許さぬものがあります。

その為か、私どもの研究活動も次第に窮屈となりつつあり、見方によっては、当研究所創立当時の状況と似ているとも考えられます。

この時に当り、研究所の歴代所長の方々を中心としさらに前教授である佐川一郎先生に当時の感想文等をお願いし、当研究所のこし方をふり返りつつ、併せて将来への途を検討してみたいと考えるに至りました。

当然のことながら、御高齢の先生方や既に御逝去になった方々もいられますし、なお御多忙の方々もあり、全ての先生方からの原稿は戴きえませんでした。これも止むを得ない処でありましょう。

しかし、大部分の先生方はこころよく御協力下さいまして、御写真とともに御寄稿戴いたことは感謝に耐えない処です。原稿を拝読してみますと、現在の私どもは、もっと努力しなければという気がいたします。

教授陣は、現在細菌血清学部門を除いて全て2代目で、いずれ3代目となる教官も少くありません。

研究所の興廃も、俗にいう3代目で決すると存じます。この時期に歴代所長の方々の御顔を写真で拝見しながら、御感想や御考えを反芻することにより、当研究所の過去、現在そして未来について考察することは決して無駄ではないと考えております。

研究所で現在活動中の方々はもちろん、先輩の諸先生方にも是非御一読を賜りたいと思う所以であります。